

日本一のりんご生産地である弘前市では、りんごを主体とする果樹の生産額が全体の8割以上を占める一方で、果樹生産は他品目に比べて労働集約的であり、高齢化や人口減少が進む中、補助労働力不足への対応が喫緊の課題となっている。このため、課題解決に向けて、行政や農協、生産者団体等の産地関係機関が一体となって、農業者の「働き方改革」への理解促進及び労働者受入環境の改善・強化を図りつつ、新たな担い手や補助作業員の確保・育成を図る。

事業実施主体構成員

弘前市、青森県中南地域県民局、(公社)あおもり農林業支援センター、弘前市農業委員会、つがる弘前農業協同組合、相馬村農業協同組合、津軽みらい農業協同組合、(公財)青森県りんご協会、青森県農業共済組合、青森県農業法人協会

実績値(目標値)

- ①新たに労働力を受け入れる生産者数:146経営体(目標値:100経営体)
- ②労働環境に満足している被雇用者の割合:90%(目標値:90%)

令和2年度取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握

・令和元年度に弘前市が実施した「今後の営農意向にかかるアンケート調査」(対象:市内農家約6,500世帯)では、回答者2,606件のうち約70%が今後10年間における農作業の人手について「既に足りていない」または「いずれ足りなくなる」と回答。

イ 労働力の確保・育成

- ・弘前市管内における「農業の無料職業紹介所」の周知用チラシを作成。
- ・初心者向けりんご研修会等の周知用チラシを作成し、新聞折込広告や大学やスーパー等への設置により、ターゲット別の周知を実施。
- ・補助労働力の育成を目的に初心者向けりんご研修会等を開催。

ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

・初心者向けりんご研修会の会場に無料職業紹介所を設置。求職登録した研修生7名のうち6名を生産現場とマッチング。

エ 農業の「働き方改革」への取組み

- ・農業者等を対象に、受入環境の改善・強化を目的とし「農業の労働力確保セミナー」を開催。(2月17日)
- ・受入農家の雇用環境や管理能力、働き手のニーズ等の実態を把握するため、農業者及び補助作業員に対しアンケート調査を実施。

オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

- ・農福連携による有袋栽培の推進に向け、障がい者を対象に袋掛け作業の研修会を開催。
- ・市福祉部局や社会福祉法人と連携し、障がい者と農業者のマッチングを行い、3名の障がい者が生産現場で作業に従事。

課題と令和3年度 of 取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握	
【課題】	【次年度の取組み】
イ 労働力の確保・育成	
【課題】 今年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していた研修会の一部を開催することができなかった。また、研修会や無料職業紹介所の十分な周知や労働力確保を目的としたPR動画制作に要する取材を行うことができなかった。	【次年度の取組み】 ・無料職業紹介所の周知をターゲット別を実施する。 ・各研修会を開催する。 ・研修会開催と併せて、PR動画の素材を取材し、PR動画を完成させて公開する。
ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化	
【課題】 各研修会の参加者をより多く生産現場へつなげるために、参加者情報をデータベース化し、フォローアップする必要がある。	【次年度の取組み】 各研修会の参加者に対して作業経験や就労希望等についてのアンケートを実施しデータベース化する。求人等の情報提供を希望する参加者には、協議会からSNS等を用いて、求人情報等を提供、農業者が必要とするとき、適時に労働力を供給できるような体制を確保する。
エ 農業の「働き方改革」への取組み	
【課題】 令和2年度開催の労働力確保セミナー（労務管理研修会）におけるアンケート結果により課題等を把握。	【次年度の取組み】 ・アンケート結果を踏まえ内容を見直し、農業の「働き方改革」への理解促進及び労働者受入環境の改善・強化を目的としたセミナーを開催する。 ・令和2年度に実施したアンケートにより把握した課題の解決に向けた取組の実行計画を作成する。
オ 他産地・他産業との連携による労働力確保	
【課題】 農福連携推進のため、障がい者を対象に研修会を開催した後、園地でのりんごの袋掛け作業を実施したが、農家が求める作業水準には至らなかった。	【次年度の取組み】 障がい者向け研修会の対象者数を令和2年度より増やして開催する。また、令和2年度に製作した袋掛け作業の練習キットを事前に事業所に貸与し、事業所内での反復練習を実施することにより、障がい者の作業水準の向上を図る。